

# キクの栽培技術の確立



## 炭酸ガスで冬場のボリュームアップ！

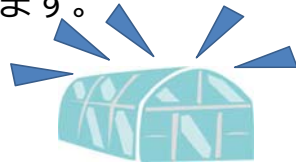
野菜・花き部 花き研究担当

### キク生産における冬場の問題点

キクは佐賀県で最も多く生産されている花き品目で、ハウス栽培により1年中出荷されています。

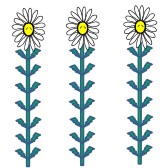


しかし冬場は…



キクの生育に必要な温度（13℃以上）を確保するために、ハウスを密閉している時間が多くなります。

このため、ハウス内の炭酸ガス濃度が低下しやすく、光合成が十分に行われないことから、養分が不足して、細くボリュームのない切り花になってしまいます。



### R 1 炭酸ガス施用試験の結果

キクの年末出荷栽培において、炭酸ガス施用による切り花のボリュームアップ効果を検討しました。

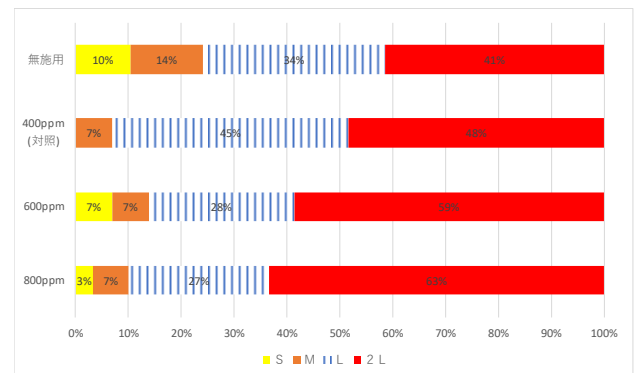
点滴チューブを使用した施用方法で炭酸ガス濃度を400ppm（対照）、600ppm、800ppmで栽培した結果、濃度が高くなるほど生育が旺盛となり、切り花の2L割合も高くなりました。



炭酸ガス

制御盤

収穫時の生育		（※±は標準誤差）	
試験区濃度	切り花長（cm）	切り花重（g）	90cm調製重（g）
無施用	141.5 ± 0.7	112.5 ± 3.8	71.3 ± 3.0
400ppm（対照）	140.5 ± 1.0	118.4 ± 3.7	76.5 ± 2.7
600ppm	143.0 ± 0.8	125.7 ± 4.7	80.8 ± 3.5
800ppm	145.5 ± 0.4	134.7 ± 4.9	83.5 ± 3.4



収穫時の切り花等階級内訳（90cm調製重でS：35g～、M：50g～、L：60g～、2L：75g～）

### R 2 炭酸ガス施用試験の内容

本年度は11月定植～3月出荷の作型で試験中です。

- ◆ 施用濃度の検討 ①400ppm（対照） ②600ppm ③800ppm
- ◆ 施用箇所の検討 ①株元付近施用 ②生長点付近施用
- ◆ 施用期間の検討 ①全期間 ②前半（定植～消灯） ③後半（消灯～収穫）
- ◆ 密植栽培の検討
  - 輪ギク ①45,000本/10a（対照） ②52,000本/10a ③59,000本/10a
  - スプレーギク ①2本仕立て（対照） ②3本仕立て ③4本仕立て